

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：62618

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K16824

研究課題名（和文）琉球諸語の記述と復興研究のためのプラットフォーム基盤構築研究

研究課題名（英文）Building a Platform for Documentation and Revitalization of Ryukyuan Languages

研究代表者

山田 真寛 (YAMADA, Masahiro)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・言語変異研究領域・准教授

研究者番号：10734626

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はUNESCOが2009年に報告した日本の消滅危機言語の内6つを占める琉球諸語の、文法記述、記録保存、継承保存を並行して進めることを目的とする社会課題解決型のプロジェクトである。研究代表者がフィールドワークを行っている与那国島と沖永良部島を中心に、地域言語コンテンツの制作と利用を核とした複数のプロジェクトを、地域言語コミュニティと協働で進めた。地域言語コンテンツの制作過程で文法記述が進み、制作物は言語の記録として蓄積され、かつ言語の継承にも利用可能なものが数多く生み出された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本プロジェクトが制作した地域言語コンテンツは消滅危機言語の記録として蓄積され、さらに言語継承にも利用されている。言語の記録や利用可能な学習教材がほとんど存在しない現状を変えたと言える。また基礎研究として地域言語の理解度を測定する心理言語学実験を行い、60歳以上の流暢な母語話者と日本語モノリンガルとなっている小さな子供たちの間の世代に、非常に多くの「潜在話者」が存在することを明らかにした。これまで過小評価されてきた潜在話者の存在を客観的な実験結果によって指摘し、さらに彼らと協働して消滅危機言語の継承保存を進めたことは、学術的にも社会的にも意義のあることだと考えられる。

研究成果の概要（英文）：UNESCO reports that there are eight endangered languages in Japan and six of them are Ryukyuan Languages. This project aims to advance grammatical description, documentation, and revitalization of Ryukyuan Languages mainly targeting Yonaguni and Okinoerabu Ryukyuan, which the PI has been working on. We have collaborated with the local language community members to create local language contents. The process of creating these materials advanced grammatical description. The materials themselves contributed to the language documentation. They are also used for language revitalization.

研究分野：言語復興

キーワード：琉球諸語 消滅危機言語 言語復興 与那国 沖永良部

## 1. 研究開始当初の背景

UNESCO が 2009 年に報告した日本の 8 つの消滅危機言語の内 6 つをしめる琉球諸語は、流暢な母語話者が概ね 60 歳以上であり、世代間継承が断絶していると言われている。2000 年代に入ってから琉球諸語の体系的な文法記述が進められてきたが、辞書や談話資料の蓄積なども含めた総合的な言語の記録保存は、文法記述に比べて遅れている。また、生きた言語の保存、つまり世代間継承による言語の継承保存に関する研究は、日本ではほとんど行われていない。体系的な文法記述、言語の記録保存、継承保存はすべて、流暢な話者が健在な今まさに行うべき喫緊の課題である。

文法記述は一般的に、言語研究者が一人または少数の言語コンサルタントからの聞き取り調査によって進められるが、大量の言語データを収集しかつ逐語訳などのアノテーション付与に時間を要する言語の記録保存は、研究者個人が蓄積できる量に限界がある。さらに言語の継承保存は、言語コミュニティメンバー一人ひとりの主体的かつ継続的な取り組みが必須であり、研究者が一人で達成できることではない。これらの理由から、言語の記録保存・継承保存に関する研究が遅れていると考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究は、これまで研究代表者がフィールドワークを行ってきた与那国島（沖縄県八重山郡与那国町）と沖永良部島（鹿児島県大島郡和泊町・知名町）において、地域言語の文法記述、記録保存、継承保存を並行して進めることを目的とする。

琉球諸語は支配言語である日本語の影響下にあり、地域言語の価値が広く認知されているとは言えず、学習に利用可能な教材もほぼすべての地域で存在しない。そのため学習教材としても利用可能で、地域言語の価値を再認識できる魅力的な地域言語コンテンツを制作することも本研究の目的とする。後述するように地域言語コンテンツの創出は、そのものが目的でもあり、上述の目的を達成する手段でもある点が本研究の特徴である。

## 3. 研究の方法

消滅の危機に瀕した地域言語の文法記述、記録保存、継承保存を並行して進めるためには、一つのアクションで多くの問題を解決しなくてはならない。本研究はこれを、地域言語コンテンツを核とする複数の小規模なプロジェクトを進めることで達成する。

地域言語コンテンツは、制作過程で行う調査によって文法記述を進めることができる。また制作物は言語記録として蓄積され、(3) 言語習得の教材としても利用できる。さらにコンテンツ自体を魅力的なものにすることで、地域言語の価値が認識されていない現状でも (4) 地域言語コミュニティの言語継承に対する意識を醸成することが可能である。

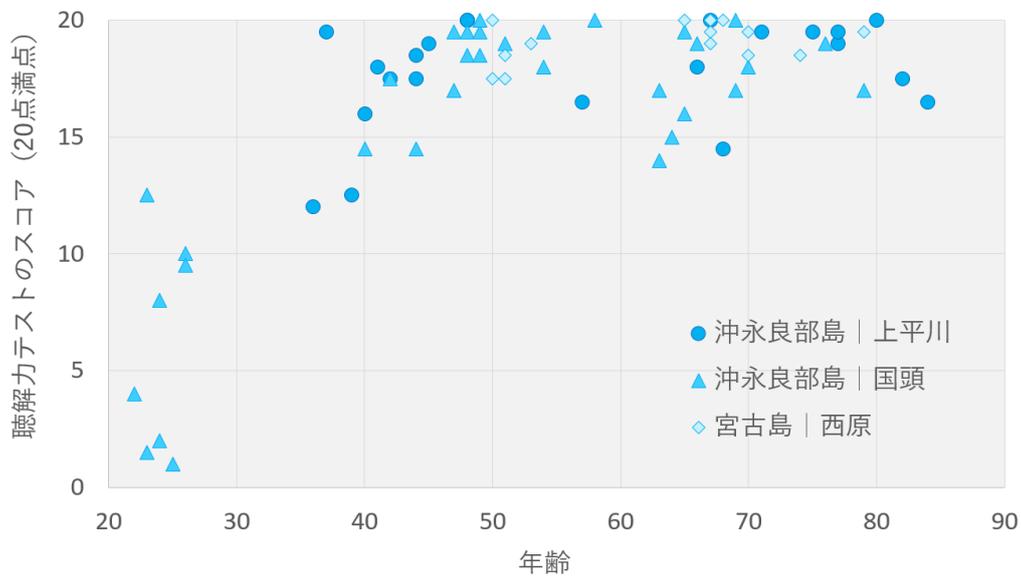
地域言語コンテンツの例として、地域言語の絵本を考えてみる。物語に詳細な逐語訳を付すために文法調査を行い、その結果として (1) が進む。また朗読音声と合わせて詳細な逐語訳と言語学的解説が付された言語記録が蓄積され (2) が進むほか、これを言語習得教材として利用することで (3) が達成される。また制作に携わるデザイナー・アーティストとは、単なる発注仕事ではなくプロジェクトメンバーとして協働することでコンテンツを魅力的なものとし、利用者を内発的に動機づけ (4) を達成する。

言語記録の蓄積は研究者が一人で行える量に限界があると述べた。本研究は地域言語コミュニティメンバーと協働してコンテンツ制作を行い、その過程で言語記録のトレーニングを提供する。これによって研究者一人では困難な量の言語記録を蓄積することを可能にするため、言語コミュニティ内にじぶんたちの言語を適切に記録できる者を増やすことを目指す。

## 4. 研究の成果

### (1) 世代間継承度の測定

琉球諸語は世代間継承が断絶していると言われているが、実際に客観的に調査した研究は存在しない。流暢な母語話者が高齢者であり、小さな子どもたちが日本語モノリンガルであることはフィールドワークから想像できるが、その間の世代の地域言語運用能力は過小評価されてきたと指摘することができる。次のグラフは沖永良部島の二つの言語コミュニティと宮古島において年齢別の地域言語理解度を測定した心理言語学的実験の結果である。



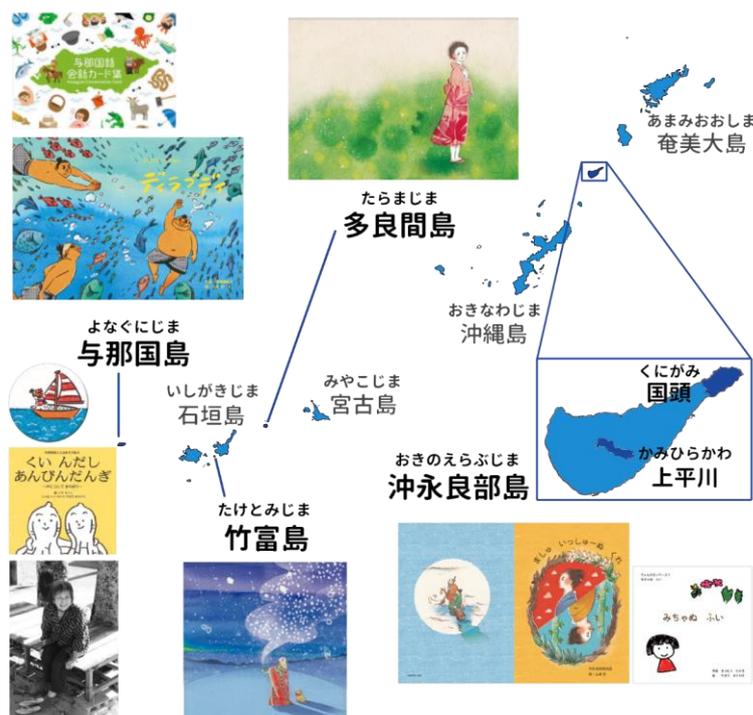
実験の結果、地域内で「聞けるけど話せない」と言われている世代の地域言語理解度は、30代後半まで流暢な話者と差異がないということが明らかになった。彼らは受動的言語能力を持つ

パッシブバイリンガルであり、まったくの初学者と比較してはるかに少ない労力で地域言語を話せるようになると考えられる。

本研究は彼らを「潜在話者」と位置づけ、彼らの地域言語使用の促進が言語の継承保存の鍵となると主張する。なぜなら彼らはコミュニティ内に占める人口が最も多いだけでなく、言語獲得期にある子どもを育てている、もしくは長時間ともに過ごすことが多い世代だからである。また彼らの地域言語アウトプットの増加は、外部の研究者がアクセスしにくい子どもたちの地域言語インプットに直結することも大きな理由である。

## (2) 地域言語コンテンツ

沖永良部島で『みちやぬ ふい (土の 声)』、『リズムでおぼえるしまむに絵本 シマノトペ』与那国島で『くい んだし あんびんだんぎ (声 出して 遊ぼう)』を地域言語コミュニティメンバー、アーティスト、デザイナーと協働で制作し出版した。また地域言語コミュニティメンバーをコーディネーターとして、写真家とともに写真冊子『与那国の人とことば』を研究期間中毎年(計5冊)制作し出版したほか、与那国町教育委員会と協働し『与那国語会話カード集・簡易語彙集』を制作した。また研究期間中には出版しなかったが与那国島、竹富島、多良間島、沖永良部島で昔話・民謡を題材にした物語で絵本を制作し、地域内の読み聞かせ会やワークショップなどで利用した。



これらはすべて「つくりっぱなし」にすることなく、制作プロジェクト開始段階から利用プロジェクトを計画し、制作途中のサンプルを配布して地域内の読み聞かせ会やワークショップで利用し、利用者がより使いやすくするためのフィードバックを得て制作した。

(3) しまむにプロジェクト（「しまむに」は沖永良部語で“島のことば”を指す）

上述の地域言語コンテンツは主にコミュニティ外の研究者や専門家が、利用者となる地域言語コミュニティメンバーが内発的に動機づけられるようなものを考えて制作した。彼ら自身が「おもしろい・やりたい」と思うコンテンツを制作するために、沖永良部島の下平川小学校区、国頭小学校区、和泊町職員組合で参加者を募り「しまむにプロジェクト」を2018年度から毎年一回実施した。

「しまむにプロジェクト」は、家庭ごとに三世代が協働して地域言語使用を促進するようなコンテンツを制作する。その成果を地域内で共有する場を設けたほか、さらに参加者を国立国語研究所に招聘してコミュニティ外への発信も行った。家庭内のプロジェクトを、地域内へ、そしてコミュニティ外へと広げる役割を各参加者が意識することで、言語の継承保存にとって非常に有効なプロジェクトになったと考えられる。

(4) コミュニティメンバーによる国際会議での発表

コンテンツ制作やしまむにプロジェクトに参加したコミュニティメンバーとともに、消滅危機言語に関する世界最大の学会 International Conference on Language Documentation and Conservation (ICLDC, 米国ハワイ大学) や、国立国語研究所で開催した北東アジアの消滅危機言語を対象にした国際集会、国連の国際先住民言語年 (International Year of Indigenous Languages, 米国パデュー大学) に関する国際集会で発表した。本研究の成果発表だけでなく、コミュニティメンバーがじぶんたちの取り組みや思いをじぶんたちのことばで発信したことは、後述するようにその後の地域内での言語継承の取り組みに大きな影響を与えたと言える。なおパデュー大学で発表した二人は40歳前後の潜在話者であり、彼らの地域言語による発表内容は以下の字幕付き動画として公開している：

[https://youtu.be/Uk\\_G2D\\_9WFk](https://youtu.be/Uk_G2D_9WFk), [https://youtu.be/4VCCuNpT\\_go](https://youtu.be/4VCCuNpT_go)

(5) 行政との協働

与那国町教育委員会と協働で上述の『与那国語会話カード集・簡易語彙集』を制作したほか、研究代表者が勤務する国立国語研究所が**沖永良部島の和泊町・知名町と沖永良部語の継承保存のための連携協定を締結**した。協定にもとづき町職員組合と協働して地域言語研修会を継続的に開催したほか、知名町中央公民館では地域言語を記録するための講座を開始した。2019年度から毎月一回、「市民科学者の育成」をテーマに、座学・実習・グループワークを中心に講座を進めている。なお2020年度からは新型コロナウイルスの影響でフィールドワークを行うことができず、インターネット会議システムを利用して開講している。

(6) 言語記録の公開

研究期間中に蓄積した言語記録のうち、字幕付き動画として制作したものは以下 URL の「言語復興の港」プロジェクトの YouTube チャンネルで公開している。

<https://www.youtube.com/channel/UCDASPFAU6dGq6-D6AfuD9uQ>

また一部の動画は原語と日本語の読み物として言語復興の港ウェブサイトで見ても読んでも楽しめる言語資料として公開している。

<https://plrminato.wixsite.com/webminato>

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Masahiro Yamada	4. 巻 7
2. 論文標題 A Formal Description of Dunan (Yonaguni-Ryukyuan) Honorifics	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ICU Working Papers in Linguistics	6. 最初と最後の頁 63-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15084/00003008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山田真寛	4. 巻 -
2. 論文標題 「消滅危機言語」「再活性化」「意味論」「語用論」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 木部暢子（編）『明解方言類辞典』三省堂	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中川奈津子, 山田真寛	4. 巻 14
2. 論文標題 「竹富島『星砂の話』の絵本作成と一般読者向け文法概説の執筆」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国立国語研究所論集』	6. 最初と最後の頁 145-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15084/00001417	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山田真寛	4. 巻 Vol.3
2. 論文標題 「地域言語コミュニティと協働する消滅危機言語研究、専門家と協働する言語と文化の継承活動」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 木部暢子, 麻生玲子（編）『新しい地域文化研究の可能性を求めて』	6. 最初と最後の頁 76-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田真寛、横山（徳永）晶子	4. 巻 8
2. 論文標題 琉球沖永良部語上平川方言の言語資料	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 言語記述論集	6. 最初と最後の頁 231-251
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山田真寛	4. 巻 -
2. 論文標題 第12章 ドゥナン（与那国）語の動詞形態論	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 田窪行則、John Whitman、平子達也（編）『琉球諸語と古代日本語 日琉祖語の再建にむけて』	6. 最初と最後の頁 249-279
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計45件（うち招待講演 29件 / うち国際学会 12件）

1. 発表者名 山田真寛、横山晶子
2. 発表標題 しまむに教室
3. 学会等名 知名町中央公民館講座（6月から3月まで毎月1回）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 子どもたちが大人になるときにも しまのことばが聞こえる世界を残すために
3. 学会等名 ICU Asian Forum（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Natsuko Nakagawa, Celik Kenan, Masahiro Yamada
2. 発表標題 Archiving System of Endangered Languages in Japan: A Preliminary Report
3. 学会等名 Language Technology for All (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masahiro Yamada, Takuya Maeda, Yurika Maeda
2. 発表標題 Language Revitalization at Home
3. 学会等名 International Year of Indigenous Languages 2019: Perspectives Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masahiro Yamada
2. 発表標題 A Formal Description of Dunan (Yonaguni-Ryukyuan) Honorifics
3. 学会等名 NINJAL-UHM Linguistics Workshop on Syntax-Semantics Interface, Language Acquisition, and Naturalistic Data Analysis (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 しまむにを次の世代に残すために
3. 学会等名 知名町中央公民館講座「しらゆり大学」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 和泊町職員方言研修会 第1回
3. 学会等名 和泊町こども園幼稚園ひまわり会 / 和泊町職員組合研修会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 和泊町職員方言研修会「親子で方言を話してみよう」の回
3. 学会等名 和泊町こども園幼稚園ひまわり会 / 和泊町職員組合研修会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 和泊町職員方言研修会 第2回
3. 学会等名 和泊町こども園幼稚園ひまわり会 / 和泊町職員組合研修会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 和泊町職員方言研修会「中学生のための初めての方言」の回
3. 学会等名 和泊町こども園幼稚園ひまわり会 / 和泊町職員組合研修会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 知名町職員方言研修会 第1回
3. 学会等名 知名町職員研修会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 しまむに教室 (辞書データ収集と管理)
3. 学会等名 知名町中央公民館講座 (5月～11月の第二、第四金曜) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinji Ogawa, Masahiro Yamada, and Yuka Hayashi
2. 発表標題 Preparing Infrastructure for Writing and Typing with non-Latin Symbols: A Case of Ryukyuan Languages
3. 学会等名 The 6th International Conference on Language Documentation and Conservation (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masahiro Yamada
2. 発表標題 Endangered Languages in Japan: Documentation and Revitalization
3. 学会等名 Digital Revolution for Under-resourced Languages in Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masahiro Yamada
2. 発表標題 Dunan (Yonaguni-Ryukyuan) Honorifics
3. 学会等名 The NINJAL-SGRL-UHM Linguistics Workshop: Grammatical Descriptions of Endangered and Understudied Languages and Dialects in East Asia and Beyond (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 危機言語・方言の保全と復興のために：データ整備と公開の価値
3. 学会等名 NINJALシンポジウム「データに基づく日本語研究」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masahiro Yamada, Yukinori Takubo, Shoichi Iwasaki, Celik Kenan, Soichiro Harada, Nobuko Kibe, Tyler Lau, Natsuko Nakagawa, Yuto Niinaga, Tomoyo Otsuki, Manami Sato, Rihito Shirata, Gijs van der Lubbe, and Akiko Yokoyama
2. 発表標題 Experimental Study of Inter-language and Inter-generational Intelligibility: Methodology and Case Studies of Ryukyuan Languages
3. 学会等名 The 26th Japanese/Korean Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 沖永良部語上平川方言(ひょーむに)の辞書制作
3. 学会等名 科研費「日本語諸方言の記録・保存に向けた甌島里方言のテキスト・辞書の作成(代表者：平塚雄亮)」および「消滅の危機に瀕した八重山語諸方言の音声・例文付き辞書作成(代表者：原田走一郎)」合同会議(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 消滅危機言語再活性化のための研究プラットフォーム：言語復興の港
3. 学会等名 日本音声学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masahiro Yamada
2. 発表標題 Port Language Revitalization Project
3. 学会等名 Approaches to Endangered Languages in Japan and Northeast Asia: Description, Documentation, and Revitalization (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 与那国語の動詞・形容詞の活用パラダイムと調査・習得の方法
3. 学会等名 「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」研究発表会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 危機的状況にある言語・方言
3. 学会等名 第22回島唄・島ムニ大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 琉球のことばの話：消滅危機言語の記録と継承
3. 学会等名 知道楽（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 「ゆしきゃ しまむに プロジェクト」の背景と経緯
3. 学会等名 ひーぬむん発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 消滅危機言語を消滅させないためにできること
3. 学会等名 下平川校区ひーぬむん国頭交流会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 子どもたちが大人になったときにも、しまのことばが聞こえる世界を残すために
3. 学会等名 東京沖州会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 二日で学ぶ与那国語
3. 学会等名 東洋文庫アカデミア集中講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 与那国語の動詞・形容詞の活用パラダイム：動詞を使えるようになるために
3. 学会等名 よなくにはほーげんクラブ（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 琉球与那国語と消滅危機言語の復興のこと
3. 学会等名 国際基督教大学「言語と社会」ゲストレクチャー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本史，山田真寛
2. 発表標題 「琉球諸語による表現活動：島ことば絵本・プロダクトの制作とコンテンツの活用」
3. 学会等名 第10回琉球継承言語研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 「地域言語間・世代間の相互理解性を測定する」
3. 学会等名 第13回琉球諸語研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masahiro Yamada
2. 発表標題 "Creating Contents for Language Learning: Collaboration with Language Communities"
3. 学会等名 NINJAL-NMJH-UHM Workshop "Underdescribed Languages and Histories: Linguist's and Historian's Challenges" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 「ミニ講義：えらぶむに（琉球沖永良部語）ってどんなことば？」
3. 学会等名 ワークショップ「えらぶむに（琉球沖永良部語）ってどんなことば？」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 「地域言語コミュニティと協働する消滅危機言語研究、専門家と協働する言語と文化の継承活動ーじぶんたちでバイリンガル社会をつくる。」
3. 学会等名 平成29年度危機的な状況にある言語・方言サミット（北海道大会）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 「しまむにと言語の多様性ーじぶんたちでバイリンガル社会をつくる。」
3. 学会等名 えらぶ郷土研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 「しまむにがどこでも聞こえる世界を」
3. 学会等名 上平川公民館
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 「ゆしきゃプロジェクトと言語復興のお話」
3. 学会等名 下平川小学校PTA総会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 「言語復興の港ー「いま何もしなければ」なくなってしまう言語のこと」
3. 学会等名 東長寺仏教文化講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 言語復興の港 消滅危機言語の復興プロジェクト
3. 学会等名 立命館大学ライスボールセミナー（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 「言語復興の港」プロジェクト 沖永良部語の辞書をつくろう
3. 学会等名 酔庵塾（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 敬語体系の意味論・語用論 - 琉球与那国語の調査・分析の事例報告
3. 学会等名 日本言語学会公開シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 琉球与那国語の敬語表現の意味
3. 学会等名 南山大学人文学部言語学講演会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山田真寛
2. 発表標題 消滅危機言語復興コンテンツのつくりかた
3. 学会等名 第11回琉球諸語研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Masahiro Yamada, Fumi Yamamoto, Akiko Yokoyama-Tokunaga, Kayoko Shimoji, Yurie Asakawa, & Yukie Matsumura
2. 発表標題 Picture Book Project for All
3. 学会等名 The 5th International conference on Language Documentation and Conversation (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shoichi Iwasaki, William O'Grady, Changyong Yang, Hiroyuki Nakama, Masahiro Yamada, Yukinori Takubo, Sejung Yang
2. 発表標題 Mutual Intelligibility and Mutual Respect: The effect of language devaluation on self-esteem and well being
3. 学会等名 The 5th International conference on Language Documentation and Conversation (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 山田真寛、森澤ケン	4. 発行年 2021年
2. 出版社 言語復興の港	5. 総ページ数 18
3. 書名 与那国の人とことば2020	

1. 著者名 山田真寛、森澤ケン	4. 発行年 2020年
2. 出版社 言語復興の港	5. 総ページ数 18
3. 書名 与那国の人とことば2019	

1. 著者名 山田真寛、森澤ケン	4. 発行年 2019年
2. 出版社 言語復興の港	5. 総ページ数 16
3. 書名 与那国の人とことば2018	

1. 著者名 横山晶子、山本史（山田真寛（監修））	4. 発行年 2019年
2. 出版社 言語復興の港	5. 総ページ数 26
3. 書名 シマノトペ	

1. 著者名 中脇初枝、葛西亜理沙（山田真寛（監修））	4. 発行年 2018年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 32
3. 書名 神の島のうた	

1. 著者名 ハラセイコ、山田真寛	4. 発行年 2018年
2. 出版社 沖縄時事出版	5. 総ページ数 112
3. 書名 『くい んだし あんびんだんぎ』	

1. 著者名 山田真寛、森澤ケン	4. 発行年 2018年
2. 出版社 言語復興の港	5. 総ページ数 14
3. 書名 『与那国の人とことば2017』	

1. 著者名 松村雪枝、山田真寛、横山（徳永）晶子、元木環、浅川友里江	4. 発行年 2016年
2. 出版社 言語復興の港	5. 総ページ数 50
3. 書名 みちやぬ ふい	

〔産業財産権〕

〔その他〕

言語復興の港プロジェクトウェブサイト  
<https://plrminato.wixsite.com/webminato>  
 クラウドファンディング：「いま何もしなければ」なくなってしまう琉球諸語の絵本を出版  
<https://readyfor.jp/projects/minato>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------